

郁子.Armandi のシカゴ便り

★ It's a small world ? ★

シカゴ生活情報誌 Q マガジン Vol. 36 より

時々小学校を訪ねて日本の歌や遊びなどを教えている。様々な外国語を教えている学校がシカゴ市内に幾つかあり、文化的な面からの理解を深める為、教育委員会が音楽家や舞踏家、絵描き等を派遣して担当教師のお手伝いをするプログラムに関わっているのである。スペイン語圏の人が最も多く、フランス・ドイツ・中国語などの人がいて、時々行われるミーティングは賑やかで面白い。もちろん私は日本語のお手伝いである。

今年で3年目になるが、ぬくぬく育った私からは想像も出来ないような苛酷な現実の中で生活している子供達もいる。しかしどの子供もそれぞれに可愛い。爆弾を買うお金はヤマほどあっても情操教育に回すお金はほとんどないので、音楽の授業などない学校も多い。今まで一度も歌った経験が無いのであろうと思われる子供に出会うこともある。「黒人は生まれつきリズム感が良い」、そんなものは大ウソである。

その中のある学校から『平和』をテーマにした発表会が5月にあるので、是非この歌を

歌いたい」とのリクエストが来た。その歌とはディズニーのテーマ曲、「It's a small world」である。

作詞・作曲 : Richard M. Sherman / Robert B. Sherman

It's a world of laughter. A world of tears

It's a world of hopes. And a world of fears

There's so much that we share. That it's time we're aware

It's a small world after all

There is just one moon. And one golden sun

And a smile means Friendship to ev'ryone

Though the mountains divide. And the oceans are wide

It's a small world after all

It's a small world after all. It's a small world after all

It's a small world after all. It's a small, small world

これに日本語訳があり、日本でもよく歌われているそうだ。子供達は大好きなこの曲を屈

託無く歌うだろう。リズムカルなメロディなので、大人もきっと楽しいだろう。しかしここにある歌詞のように果たして世界は本当に小さいのだろうか。遠く離れた想像も出来ない所に暮らす人々の、悲しみや怖れなどを我々に分かち合うことができるのだろうか。アメリカによる侵略戦争が始まった今も、この歌を平和のメッセージとして歌うことができるだろうか。

この曲は、単純なディズニーの世界をとて もよく表している。良い人と悪い人が出てきて、良い人は悪い人達にいじめられて大変な思いをするが、最後は良い人が勝つ。それは「Are you with us or against us?」という思想にもよく似ている。

それに比べるとディズニーが買い取ってアカデミー賞まで取った「千と千尋の神隠し」の成熟度はどうだろうか。良い人も悪い人も出てこないこの映画、そこにいるのは時には良い人になり、時には悪い人になってしまう我々がいる。何だかよくわからないあなただけで一緒に行きましょう、と言う白でもない黒でもない、灰色の現実を肯定する愛を見る。

カオナシを一緒に連れていく千尋に泣ける。日本が懐かしくて泣ける。そして最後の最後に、名曲「いつも何度でも」が流れてくるのです。まだ見てなかったら是非見て下さい。日本人で良かったなあとおもわせてくれるから・・・。こんな素晴らしい映画を作ることの出来る素晴らしい日本なのに、「アホで間抜けな」アメリカに追随することしか知らない日本の政治家は「もっとアホで間抜け」である。

「アメリカは戦争でイラクの人を殺すのではなく、助けているのだと子供に教えなさい」とテレビの中の専門家が喋っている。通信機器の急速な進歩で狭くなったはずの世界は、去年の9月11日以降どんどん遠のいているのを感じる。アメリカの子供達が「It's a small world」を楽しく歌う姿を素直に喜べる日が、早く来て欲しいと思う。

今回のお勧めの一曲

モーツァルト

W. A. Mozart

クラリネットと弦楽四重奏の為の5重奏 イ長調 K.581

Quintet for Clarinet and String Quartet in A major, K. 581

2年ほど前、シカゴシンフォニーの主席クラリネット奏者 **Larry Comb** の演奏でこの曲を初めてライブで聞いた。2楽章を聞いている時「至福」という言葉が頭に浮かんだ。フェロモンが出る感じ・**#65288**;いや、アルファ波か・**#65289**;。彼の、手を抜かない真摯な演奏は素晴らしかった。モーツァルトの音楽は純粹にそれだけで美しい。しばし現実から離れて「至福の時」を持って下さい。新たに現実と闘う勇気を持つために。

この曲はよくブラームスのクラリネット5重奏（同じ編成）と一緒にしてCDになっているので（負けず劣らず美しい!）、どうせ買うならセットになったものお勧めします。